

Liriomyza 属 3種ハモグリバエの生態と防除

徳丸 晋 氏

(京都府農業総合研究所)

日時：2008年12月17日（水）17:00～18:30

会場：明治大学生田キャンパス 中央校舎 0412教室

ハモグリバエ類は、ハエ目ハモグリバエ科に属する小型（体長2～3mm）の昆虫です。幼虫が葉に潜って葉肉を食害し、食害された部分（食害痕）が白い筋状に残るため「絵描き虫」とも呼ばれています。食害痕が広がると植物の光合成が阻害されるため収量の低下、酷い場合には枯死を引き起こします。もともと日本にはナスハモグリバエ（*Liriomyza bryoniae*）やネギハモグリバエ、ナモグリバエがいたのですが、1990年に侵入したマメハモグリバエ（*L. trifolii*）と1999年に侵入したトマトハモグリバエ（*L. sativae*）は殺虫剤抵抗性が著しく発達しており、防除が難しく現在でも大きな被害を出しています。さらに、*Liriomyza* 属のハモグリバエ類は形態や加害様式が酷似しており識別は容易ではなく、生産現場での防除をさらに難しくしています。

徳丸氏は、3種の *Liriomyza* 属ハモグリバエの発生実態や増殖能力、寄主植物選好性などを詳しく比較し、生物学的特性を明らかにしてきました。また、殺虫剤抵抗性が問題となるマメハモグリバエとトマトハモグリバエの薬剤感受性を発育段階別に比較して、防除対策を構築するための基礎的な知見を得ています。これらの成果は、生産現場における実用性と学術的価値の両面から極めて高く評価されています。徳丸氏とは同世代で、日頃から色々とお世話になっています。今回は、東京で開かれる会議に出席するところに無理を言って足を運んで頂きます。生産現場で活躍する若手（？）研究者の‘リーダー’に貴重なお話をして頂きますので、多くの学生さんに参加して頂きたいと思っています。

問い合わせ：農学部 応用昆虫学研究室

糸山 享（内線：7810）